



防災対策 情報便

発行日	平成 31 年 3 月 29 日
発行元	災 害 対 策 課
所属長	課 長 福 田 大 樹
電 話	06-6489-6165

1 指定避難場所を拡充します。

平成 31 年 4 月 1 日(月曜日)から、園田競馬場(田能 2 丁目 1-1)について、これまでの第 4 投票所、和室休憩室に加えて、耐震化工事完了に伴いスタンドも指定避難場所として拡充します。

施設名	所在地	収容人数(拡充分)
園田競馬場	田能 2 丁目 1-1	1,110 人

2 津波等一時避難場所を追加・拡充指定します。

平成 31 年 4 月 1 日(月曜日)から、次の施設を津波等一時避難場所に追加・拡充指定します。

施設名	所在地	収容人数
中央北生涯学習プラザ	東難波町 2 丁目 14-1	250 人
大庄北生涯学習プラザ	大島 3 丁目 9-25	240 人
メロディーハイムたちばな	西立花町 4 丁目 5-1	840 人
園田競馬場(拡充)	田能 2 丁目 1-1	2,620 人

今回の施設の追加・拡充指定で、合計 358 施設(364,790 人)となります。

3 防災行政無線を拡充設置しました。

防災行政無線の屋外拡声器について平成 30 年度は、河川付近の居住地域に、屋外拡声器 5 基を新設しました。

屋外拡声器については、市民の皆様への情報伝達手段のひとつとして防災情報が迅速に伝達できるよう、平成 31 年度も引き続き拡充設置していきます。



守部公園に設置した屋外拡声器



園田東中学校に設置した屋外拡声器



猪名川公園に設置した屋外拡声器



田能西公園に設置した屋外拡声器



昆陽川捷水路排水機場に設置した屋外拡声器

これによって、現在の屋外拡声器の設置状況は、次の40か所となっています。

市役所、防災センター、開明中公園、東部浄化センター、築地公園、五合橋、大物川緑地、東消防署、東消防署常光寺出張所、今福公園、宮前公園、小田南公園、西川中継ポンプ場、大庄支所、西消防署、西消防署大庄出張所、大庄中継ポンプ場、道意公園、元浜西公園、大庄西町、成文公園、立花支所、北部防災センター、武庫支所本館、武庫北小学校、武庫南小学校、園田支所、園田東小学校、北消防署塚口出張所、北消防署園田分署、戸の内公園、額田公園、小園中学校、稲葉荘、西武庫公園、守部公園、園田東中学校、猪名川公園、田能西公園、昆陽川捷水路排水機場

(注) 下線部分は平成30年度設置

4 自主防災会による防災訓練が行われました。

実施団体の名称	食満自治会自主防災会
実施日時	平成 31 年 2 月 10 日(日) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
実施場所	下食満北台公園
訓練内容	広報訓練、避難訓練、防災講座、消防訓練、講評、炊き出し訓練



避難訓練



初期消火訓練



担架搬送訓練



救急救命訓練



防災資機材見学



炊き出し訓練

実施団体の名称	大庄西自主防災会、大庄中央自主防災会
実施日時	平成 31 年 3 月 3 日(日) 午前 10 時～正午
実施場所	尼崎市立大庄小学校
訓練内容	水平避難訓練、避難所開設確認訓練、垂直避難訓練、避難所開設・運営講座 避難スペースの確認、避難所用機材取扱訓練、講評



避難所開設確認訓練



水平避難訓練



垂直避難訓練



防災講座



避難スペースの確認



避難所用機材取扱訓練

実施団体の名称 崇徳院自主防災会、蓬川連協自主防災会
実施日時 平成 31 年 3 月 15 日(金) 午前 10 時 30 分～11 時 30 分
実施場所 尼崎市立成徳小学校ミニ図書館 中庭
訓練内容 避難訓練、シェイクアウト訓練、防災講座、119 番通報訓練、初期消火訓練、救急救命訓練、講評



避難訓練①



避難訓練②



通報訓練



初期消火訓練①



初期消火訓練②

実施団体の名称 北竹谷自主防災会
実施日時 平成 31 年 3 月 16 日(土) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
実施場所 北竹谷連合福祉会館
訓練内容 防災講座、避難所運営訓練 (HUG)



会長あいさつ



防災講座①



防災講座②



避難所運営訓練①



避難所運営訓練②



避難所運営訓練 (情報共有)

5 平成 31 年度も気仙沼市へ職員を派遣します。

来年度は 2 名の職員を気仙沼市へ派遣します。

派遣期間・・・平成 31 年 4 月 1 日から 1 年間

写真	氏名等	抱負
	氏名 たけだ たかし 竹田 孝史 職種 技術職（土木） 配属先 建設部 都市計画課 土地区画整理室 （道路維持担当から派遣）	東日本大震災から早や 8 年が経過しましたが、復興状況は未だ道半ばと聞いています。気仙沼市復興のために、1 年間だけではありますが全力で復興支援に取り組みたいと思います。
	氏名 ぼば ゆうき 馬場 優樹 職種 技術職（土木） 配属先 ガス水道部 施設整備課 （水道部工務課から派遣）	限られた期間ですが、気仙沼市の復興・復旧にできるだけ貢献できるように、これまでの尼崎市公営企業局水道部での経験を生かして全力で取り組みたいと思います。

6 平成 30 年度、気仙沼市へ派遣した職員から報告が届きました。

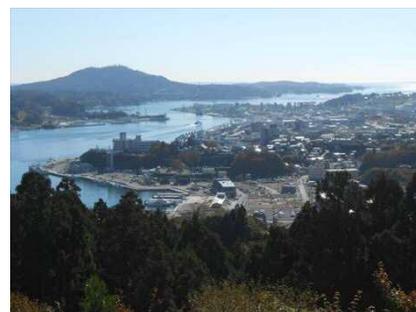
気仙沼での 1 年

宮城県気仙沼市に派遣されてからはや 1 年が過ぎようとしています。報告を兼ねて、気仙沼で過ごした 1 年を振り返りたいと思います。

気仙沼市は東日本大震災により甚大な被害を受け、尼崎市は発災直後から継続して気仙沼市を支援しています。平成 30 年度は都市整備局から土地区画整理室に 2 名、公営企業局から下水道課に 1 名の合計 3 名が派遣されました。



内湾定点写真(プラザホテル側より)



内湾定点写真(安波山側より)



都市整備局から派遣された高須、山本の2名は被災市街地復興土地区画整理事業に工事担当して従事してきました。市内では3地区（鹿折・南気仙沼・内湾地区）で区画整理事業が進んでおり、例年尼崎市からの派遣職員は内湾地区の現場を担当しています。内湾地区は気仙沼の中心市街地であった箇所であり、商業・観光地域としての復興を目的として事業を進めています。

工事概要としては、津波で被害を受けた地区全体を盛土嵩上げし、新しい宅地をつくり、併せて道路整備工事を行っています。内湾地区の宅地造成は80%以上が完成しており、少しずつまちに賑わいが戻って来ていますが、周辺の道路の整備が終わっていない箇所が多数残っています。道路が整備されないと観光客を呼び込むのが難しいという地元の声も多数聞こえており、道路整備の重要性を土木職員として肌で感じる機会になりました。

地区内では盛土造成工事及び道路整備工事のほかに様々な事業（下水、ガス、水道、防潮堤等）が同時に施工されています。工程調整等大変なことも多く、まだまだ課題は残っていますが、日々変わっていくまちの状況を間近で見ることができ、モチベーションにも繋がりました。



公営企業局から派遣された^{ひび}日は津波により甚大な被害を受けた朝日町地区（南気仙沼地区）において、津波復興拠点整備事業に伴う公共下水道災害復旧事業に従事してきました。この朝日町地区には水産加工場が複数あり、多量の工場排水が発生するため当該事業を進め、公共下水道を復旧しなければなりません。

現場状況としては三陸道（高速道路）建設工事、臨港道路の嵩上げ工事、造船団地整備事業等、多種多様な事業が錯綜しております。また、南気仙沼地区の最南端に位置し、区画整理事業エリア外のため、既にある建物・施設を生かしながら各事業を進めなければなりません。そのような制約があることで事業を進めるたびに課題が発生し、工程調整や現場立会を綿密に行い、各事業者で協力し合って課題を解決してきました。しかしながら、他事業と調整がつかず、まだ着手できていない路線があるのも事実です。

災害復旧事業を通して、工程調整がいかに重要なものであるか痛感しました。その工程調整の成果として、工事に着手した時はまだ砂利道であったところも、今は新しく下水道管とマンホールが設置され、アスファルト舗装も行われており、朝日町地区の事業が進んでいることを実感できました。

この1年間派遣を通して復興の一助になればという思いで業務に従事しておりましたが、気仙沼で一番印象に残っていることは素晴らしいご縁に恵まれたことだと感じています。気仙沼は人と人の距離が近くアットホームな風土です。赴任してすぐに家に招待してもらい郷土料理をご馳走になったり、生活面で困ったことがあれば自分のことのように気にかけてくださったことを振り返ると感謝の気持ちでいっぱいです。

また、住まいが寮だったこともあり他都市から復興支援という同じ目的をもって派遣されてきた職員の皆さんとも交流を深めることができたおかげで、土木分野に限らず様々な職種について話を聞くことができ、とても学びの多い素晴らしい1年になりました。震災で繋がったこのご縁が派遣にきたことの一番の財産になったと感じています。

震災復興事業等は今後も継続して進み、平成32年度までかかる予定です。私たちは今年度末を持って尼崎に帰ることになりますが、一日でも早く被災された方々に自分の土地に帰ってきていただき、活気ある町に戻ってほしいと思います。また、土木職員として気仙沼で学んだことや人との繋がりを大切に、今後活かしていきたいと思います。

以上